



富山県の八尾町には、かつて甚九郎が渡し守をしていたと伝えられる場所に、吊り橋が架けられており、揺らぐ吊り橋として「越中おわら踊り」にも歌われるほど知られた橋であった。しかし、昭和二十三年と二十八年の両水害で流失し、二十八年の復旧時に甚九郎橋から「禅寺橋」と名称を変えた。

今回、老朽化に伴う橋梁の架けかえにあたって「橋に文化性を」とのテーマのもとに橋のデザインを一般公募し、特選のデザインを基本に、中央部にバルコニーを備え、路面にタイル張りを施し、親柱に照明灯を設置した歩行者専用橋として竣工させた。また、おわら踊りのパネルを高欄に設置したり、踊りの編み笠を街灯のデザインに取り入れ、親しみのもてる橋となっている。

DATA・BOARD 43



- ①富山県婦負郡八尾町西町～福島市内
- ②延長：72.3m、幅員：4.5m
- ③バルコニー、高欄、親柱、照明灯、デザインパネル
- ④プレストレスコンクリート、アルミニウム、タイル張り
- ⑤おわら風の盆

43

禅寺橋

ぜんでらばし